

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	辻田 匡葵	所属	東京大学
研究会等名称	Society for Tokyo Young Psychologists		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 32名 (うち認定心理士 0名) 非会員 71名 (うち認定心理士 2名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>本研究会は、研究者を目指す者に対して研究発表を行う機会を提供し、若手研究者に対して異分野交流の場とキャリア育成のための知識を提供することを目的として開催されました。昨年度同様、対面で執り行われ、37件のポスター発表、1件のスモールトーク、2件の招待講演から構成されました。</p> <p>ポスター発表では実験から臨床、応用まで幅広いテーマの研究報告がなされました。発表内容の分かりやすさや質疑応答の明確さといった観点から、博士課程以上で1件、修士課程・学部で1件に対し優秀発表賞が授与されました。</p> <p>研究会による企画として行われたスモールトークでは、「論文投稿ロードマップ」と題し、雑誌の選定や査読者とのやり取りといった具体的な手順について体験談を交えながら説明が行われました。AI ツールやオープンアクセスといった最新の動向も踏まえつつ、各プロセスの目的や関係者の役割について議論が交わされました。</p> <p>招待講演では、実際に研究の現場でご活躍されている先生方から貴重なお話を頂きました。量子科学技術研究開発機構の森数馬先生による講演「生理反応・脳活動・情報解析から探る音楽の快感情」では、音楽聴取により生じる快感情について、幅広い手法を用いて探究を続けてきた経緯が語られました。先行研究の少ない分野において入念の下調べと意見交換が重要であること、研究の場の選び方といった話題が、実際のご経験を軸に展開されました。また今後の展望として、音楽という複雑な刺激に関する研究の領域横断的な広がりについても触れられました。先端科学技術研究センターの松尾朗子先生には「道徳判断と文化、ときどき感情」という題で、境界という概念への興味から出発した道徳観にまつわる研究についてお話し頂きました。道徳という概念がこれまでどのように捉えられてきたか、今後どのような研究に繋がるかといった内容が、その社会的性質という観点から語られました。取り扱う概念が文化によって異なることを例に、研究において広い視野を持つことの重要性をご教示頂きました。</p> <p>以上述べたことを踏まえまして、本研究会ではいずれの企画においても、これから研究を試みようとする参加者の背中を押す内容を提供できたと考えます。本組織は次年度以降も研究発表や異分野交流の場を設け、若手研究者の励みとなるよう活動して参ります。</p>		

(様式5)

2024年4月4日

日本心理学会研究会

年度会計報告書

研究会名称 Society for Tokyo Young Psychologists

研究会番号 23,009

助成金額 ￥30,000

年月日	項目	金額
2024年3月16日	人件費（受付2名）	¥20,000
2024年3月15日	印刷費（ポスター）	¥6,060
2024年2月13日	人件費（設営1名）	¥2,000
2024年4月	返金（日本心理学会）	¥1,940
支出合計		¥30,000